

鯖江市総合戦略推進会議 第4分科会【要旨】

日時 令和元年10月9日（水）

午後3時から

場所 市役所 4階IT会議室

【出席】5委員（欠席1名）

- 1 開 会
- 2 分科会長あいさつ
- 3 議 事
「安心で快適に暮らせるまちの創造」の改訂について
- 4 閉 会

【配付資料】

- ・ 総合戦略推進会議委員名簿（分科会別）
- ・ 総合戦略推進会議分科会実施手順
- ・ 鯖江市総合戦略体系図

【議事要旨】

▼分科会長あいさつ

会長を務めさせていただきます川島です。よろしく申し上げます。時間の限られる中、皆様からの活発なご意見をいただければと思います。では、事務局から総合戦略体系図等の説明をお願いします。

▼総合戦略推進会議分科会実施手順について

事務局説明。

▼総合戦略基本目標 I 「魅力なる雇用の創出」体系図説明

事務局説明。

▼分科会長

説明ありがとうございます。では、基本施策、KPI、実施施策、主要な事業等、委員の皆様の質問、意見等いただきたいと思います。何か意見等ありましたら。

▼委員

マイナンバーカードは、今現在どのような時に使えるのか。住民票や証明書関係などの発行の際などに使うものか。

▼政策経営部長

おっしゃるとおり、マイナンバーカードにより住民票などがコンビニで365日いつでも出せるようになった。また、保険証をマイナンバーカードに入れ込もうと現在、国が進めている。

▼委員

免許証も兼ねると楽になるのだが。カードが増えすぎて困っている。

▼政策経営部長

色々なカードが溢れすぎており、それも一つの手ではあるかもしれない。現状、なかなかマイナンバーカードが普及しておらず、マイナンバーカード一つで様々な行政サービスが受けられるようにしようというのが、マイキープラットフォーム推進事業である。

▼委員

マイナンバーカードにも有効期限はあるのか。

▼政策経営部長

あったと思う。基本、発行してから10年で、一部証明書については5年、また、顔写真の更新も5年だったと思う。それと、先ほど説明のあったAIチャットボット導入事業について、本市の導入はこれからだが、皆さんも利用されているかと思うLINEを使い、友達申請で市役所と友達になり、例えば「ゴミの出し方は？」と打つと、AIが〇〇地区の燃えるごみは何曜日です、資源物は何曜日ですといった情報を回答してくれる。AIに学ばせて住民に自動で返答するという仕組みが既に運用されており、窓口業務、職員負担の軽減につながっている。いわゆるチャット（会話）により行政情報を自動で回答する仕組みを大津市などいくつかの自治体を取り入れており、今後一気に広がっていくと思われ、総合案内のような窓口はいずれなくなっていくと思う。

▼委員

西山公園のイルミネーションは無料で見られるのか。たしか今年から始まったスキージャンプのライトアップは有料だったと思うが。

▼都市整備部長

無料です。

▼委員

それと、西山公園・鯖江IC連絡道路の進捗具合は。

▼都市整備部長

必要性は重々認識しており、県にも市の重要要望としてお願いはしている。ただ建設費用も大きく、なかなか進展していかないのが現状である。市の都市計画マスタープランにも位置付けている道路でもあるので、引き続き実現に向けて要望活動をしていきたいと考えている。

▼委員

インターから曲がらないといけないのはかなり不便で、ぜひ実現に向けてお願いしたい。長泉寺町の方々からの反対はないのか。また、橋を渡す形式になるのか。

▼都市整備部長

長泉寺町から反対といった話は聞いていない。また、下を通すとなると費用が非常に高くなるので、橋を渡す形式になると思う。

▼委員

踏切も途中にあるが、JR西日本が反対しているということもないのか。

▼都市整備部長

そういった話も聞いてない。やはり、県としても県内の道路ネットワークの構築に向けた計画を勘案しながらとなるので、なかなか進んでいかないのが実情である。

▼委員

また、話は変わるが、越前市のだるまちゃん広場の来場者が増えており、西山公園の来場者を超えたと聞いた。たしかに親子で賑わっており、子どもも楽しめるものが多いと聞く。西山公園もこのままで大丈夫かと心配している。西山公園にもパンダランドがあるが。

▼都市整備部長

西山公園で子どもが楽しめるとなると、芝生広場や動物園になるかと思う。パンダランドは北側に位置しており、日光が遮られているといった部分はたしかにある。

▼政策経営部長

西山公園の前に子育て支援センターがあり利用者も多い。利用者に聞くと公園も近くにあって子どもを遊ばせながら支援センターも利用できるといった意見が多い。

▼委員

子育て支援センターも、鯖江市ではなく越前市のセンターに足を運ぶと言っていた知り合いがいた。詳しい理由までは聞いていないが越前市の方が良いと言っていた。

▼政策経営部長

来年、早稲田保育所と進徳幼稚園を合併してこども園を開園する予定でいる。その開園に向けて、現在進徳幼稚園の改築作業を行っているが、早稲田保育所は閉所されるので、建物の有効活用ということで子育て支援センターの機能を持たそうという計画で検討が進められている。人口増に向けて子育て環境充実を図る目的もある。

▼委員

子育て世代の方々の意見は反映させるべき。

▼政策経営部長

鯖江は冬の期間、子どもを遊ばせる場所（屋内施設）がないので、遊ばせる場所（施設）を作ってほしいといった話が多い。例えば、池田町の木の里公房のような施設をイメージしているものと思われるが、そのような意見を多く聞く。

▼都市整備部長

西山公園のPRとして一つお伝えしたいのが、たしかに子どもの楽しめる所となると少ないと意見がある一方、大人、夫婦で気軽に山を散策、散歩するといった方々は増えており、四阿（あずまや）や池もあるなど好評を博している。越前市からも来場者が多い。

▼委員

それは、どちらかと言うと若い夫婦ではなく年配の方々の意見だろうと思う。自分も散歩するので、そういった意見が多いのは分かる。また、越前市からの来場が多いと言うのも分かる。村国山と比べると西山の方がはるかに魅力的だと思う。今、村国山では

ハングライダーができる施設ができたと聞いているが、うまくいくかどうか。

▼政策経営部長

池田町のアドベンチャーパークも人気を博していると聞くが、料金も高かったように思う。それに比べると、西山公園は動物園も無料で街中にも位置し気軽に立ち寄れる公園だと思う。

▼委員

だるまちゃん広場は、駐車場が無料で、かつ公園のすぐそばに駐車できる。西山公園の場合は、基本的に嚮陽会館の駐車場を利用すると思うが、嚮陽会館でイベントなどがあると駐車できないし、道の駅の駐車場も満杯になってしまう。すぐ止められて、すぐ公園という感じではないので、子育て世代の方々には利用しづらいところはあると思う。

▼政策経営部長

特に土日になると駐車場がないことが多いということかもしれない。

▼委員

おっしゃるとおりで、西山公園に限らず市全体として駐車場が少ないように感じるし、私の回りでも駐車場がないという人の声が多い。

▼都市整備部長

嚮陽会館から道路、福井鉄道を挟んだ東側にも駐車場はあるが、進入口が来場者には複雑で分かりづらいのか利用が少ない。

▼委員

たしかにどこから進入すればいいのか知られていない。線路側に進入口を設けることはやはり難しいか。

▼都市整備部長

厳しいと思う。

▼委員

コンパクトシティについて、どの自治体もコンパクトシティを目指すと言っており、実現を目指すことは必要だが、実際に進めていくとなると非常に大変で、今回の資料にもいくつか施策や事業が書かれているが具体的なものがないように感じる。その辺りはどう考えているのか。

▼都市整備部長

立地適正化計画に基づく居住誘導区域内を重点的に景観に配慮しながら道路などインフラ整備を進め街中への誘導を図っている。

▼委員

なるほど。ただ一つ気になったのが、商店街連合会の意見で「空き家、空き店舗が増えている」とあるが、鯖江市は空き家調査を行っているのか。

▼総務部長

空き家調査は実施している。平成27年時点で約750件あった。

▼委員

なぜ空き家になっているのかといった背景は掴めているのか。

▼総務部長

一概には言えないが、やはり、子どもが都会に行ってしまったいたり、代が変わって相続権放棄をされた物件などが主だと思われる。

▼委員

他自治体で、若い世帯が別棟に住むのを抑える施策、同居を進める施策に取り組んでいるところはあるのか。

▼政策経営部長

多世代同居に補助を出しているところはあると思う。

▼委員

今は新しい家を建てたり、アパートに住んだりといった若い世代が本当に多い。なので、親世帯の家が後に空き家になるといったケースも増えているのではないか。

▼総務部長

実家のすぐそばに建てるといくらか補助を出すといった補助制度はある。

▼都市整備部長

ただ補助件数は少ない。

▼政策経営部長

単年度の補助なので建てる時期によっては対象とならない場合もあり、使いづらい補助金ではあると思う。

▼委員

鯖江市あるいは県内で同居率がどれくらいあるのか。高くないように感じるが。

▼政策経営部長

具体的な話で言うと、河和田地区で消防団の大会を開催すると、若い人たちも結構参加されるらしいが、居住は鯖江の街中に住んでいるため、普段は見かけることがないとのこと。こういった話を聞くと同居は減っているのかなと感じる。越前市は実家を離れても越前市内であれば家賃補助を出していると聞いている。市内間の移動なら問題ないとして、越前市からは出さないといった考えでやっているとのこと。そういう意味では、鯖江市の場合は幸いにして市内間の移動はあっても、市外への転出は少ない。

▼都市整備部長

市内で宅造が販売されると、あっという間に売れる。

▼委員

それは越前町などからの転出が主だと思う。

▼政策経営部長

そのできた家も、いずれは子供の代になると住む者がいなくなり空き家になるといったスパイラルに陥る懸念があり、それを断ち切る施策を打ち出せるか考えていかなければならない。

▼総務部長

ちょっと古い統計ではあると思うが、今調べたところ、福井県の同居率は64.2%、全国4位で高い水準となっている。

▼委員

私も福井に来て17年経つが、同居率の高さにびっくりした。今は全国的に核家族どころか単身世帯が増えており、1人で住んでいる世帯が非常に多くなっている中、福井はまともだと思う。

▼政策経営部長

ただ鯖江市も人口は横ばいでも世帯数は増えており、世帯当たりの人数は減っている。

▼委員

それは全国的な傾向にある。東京は本当に単身者が増えている。

▼総務部長

空き家の話に戻すと、相続放棄をして手がつけられない物件も非常に多くなっており、行政においてもなかなか指導等できない現状がある。昨年も危険な物件を行政指導により13件取り壊すことができた。これは他自治体より非常に多い数字である。それでも対策は十分ではなく、やはり所有者が分からないといったケースが多く苦慮している。

▼委員

先般、福井市から依頼を受けて、福井市順化、片町近辺の空き家調査を実施したが、空き家は多かった。商店街の店舗でも店はやっているが住んではいないという物件が多く、何が原因かと調べたら、物件にお風呂がないところが多いことがわかった。お風呂がないため住みたいとしても住めないといったことが起こっていた。その辺りをきちんと整えてあげれば、街中に住みたいと思っている人は多いので、活用ならびに誘導につながるのではと感じた。鯖江市の状況も似ているのではないか。

▼政策経営部長

街中で言うと、どちらかと言うと駐車場がないといった声が多いのではないか。また、鯖江市ではサテライトオフィスの誘致を積極的に行っているが、こちらの感覚として田舎を感じる所がいいのではと思っていたが、利便性の高い街中を希望する企業がほとんどで、実際、街中で起ち上げた企業ばかりである。

▼産業環境部長

そのサテライトオフィスの誘致の件で、都会からの問い合わせで必ず駐車場はあるかと聞かれる。

▼委員

たしかに最低4、5台は駐車できないと厳しいと思う。

▼産業環境部長

今、JR鯖江駅の駅前にL I F U L L b i z a s (ライフルビザス) という企業が参入し40名ほど働いているが、駅の目の前なので、JRなど公共交通機関を利用するものと思っていたが、ほとんどの方が車で通勤している。

▼政策経営部長

地元雇用だとそうなると思う。

▼委員

たしかに地元だと車通勤になると思う。この問題は、全体の構造を変えていかないといけない。

▼政策経営部長

車の問題で言うと、今高齢ドライバーの事故も多く、高齢者の足の確保の問題が出ているが、何とか引きこもらず好きな所に行けるような社会の実現に向けて、鯖江市においてもシェアリングエコノミーに近いような形での取組みを進めていけたらと思っている。

▼委員

自動運転の車ができれば一気に解決すると思う。10年後となると厳しいかもしれないが、20年もすれば実用化されると思う。

▼総務部長

東京オリンピックの時にも選手村において一部実証されると聞いているが、自動運転化は必須だと思う。そのためには電柱の地中化などインフラ整備も必要。

▼委員

まさにSociety 5.0の実現だと思う。

▼委員

コンパクトシティのところで一つ疑問があり、KPIに「道の駅西山公園の年間来場者数」や「西山動物園の年間来場者数」の数値が掲げられているが、コンパクトシティとどうつながってくるのかが分からない。西山公園を中心に考えているのかどうなのか、今一つ理解できない。例えばよくイメージするものは、中心地に誘導する方法、あるいはいくつか拠点があり地域交通網で繋げるやり方など、鯖江市はどこに向かっているのか具体的にイメージできない。一方でパークシティの推進は削除されており、どう判断したらいいのか。

▼都市整備部長

今回、「中心市街地周辺の人口」から「居住誘導区域内の人口」に変更したが、以前は旭町や本町などの中心市街地のみの人口誘導ということで進めてきたが、立地適正化計画を策定し、用途地域を基本に西の日野川から東の国道8号線までの間に範囲を一部広げる変更を行った。鯖江市は他市町に比べ市全体としても小さいまちだが、居住誘導区域内に誘導することによってコンパクトシティを目指し、インフラの維持管理などの効率化や地域交通網を整備しながら市全体として住みやすいまちづくりに努めていきたいと考えている。

▼委員

ただ、アパートなど建てる際の規制はないのではないかな。

▼都市整備部長

制限をかけるのはなかなか難しいが、3軒以上の住宅を建てる場合は届出を出しても

らうといった規定は設けている。

▼委員

実際、街中に住もうと思っても居住環境が整っていること、さらに住みたいと思う魅力ある物件があるかどうかの問題になってくる。魅力ある物件がないと移り住んでこない。そこに直結する施策があると良い。

▼政策経営部長

固定資産税など移り住むための優遇制度があればと思うが、なかなか難しい。

▼委員

補助やお金面の優遇ではなく、古い家でもリノベーションして住みたくなるような居住環境を整備して誘導していくことが必要だと思う。もちろんインフラ整備なども重要で、それは大きな意味では安心して快適で暮らせるまちにはなると思うが、コンパクトシティにつながるかと言えば、そうはならないわけで、次の項目に記載されている二次交通網の整備はコンパクトシティにつながってくるものなので、ここで一つ整理し、あと今言った街中に魅力ある居住環境を作るための誘導策に関する項目があってもいいのではないかと思うが、なかなか難しいですか。

▼都市整備部長

例えば、誘導策に関する補助事業などがあれば、数値目標として掲げることも可能かと思うが、現状厳しいところもある。

▼委員

お金面ではなく、たしかに何らかの予算は必要かと思うが、補助メニューではないやり方があると思う。モデル事例をいくつか設定し、それらをきっかけとして促進していくといったイメージで。全国各地で取組みが進んでおり、例えば福井市ではリノベーションスクールを開催したり、ある地域は団地を再生して居住環境の向上を図り、実際、空き家になっていた団地に人が戻ってきた事例もある。このような策を具体的に進めていけば、決してみんなに届くわけではないが、魅力ある居住空間に住みたいと思っている人が集まってくると思う。そして人が集まってくれば、さらに人を呼び好循環が生まれてくる。そういう流れを作っていくことが大事。今一度、事務局には検討をいただければと思う。

▼委員

空き家の多い地域、少ない地域といった特徴は把握しているのか。

▼総務部長

具体的な数字は言えないが、人口比、世帯数比で見ると河和田、北中山、片上あたりは多い。もちろん、単純に鯖江、神明も数は多いが、人口割合で比べてみると、その3地区ではないか。

▼委員

自分のイメージとしては、昔の街並みの道の細い所が多いのかなと感じていた。

▼総務部長

たしかにそういった側面はあるかもしれない。解体業者が入れず取り壊しができない、あるいは小さい重機で日数をかけてやるため費用が高くなりできないといった事例もある。それと、市では特に危険な状態のものを「特定空き家」と呼んでいる。それ以外のもは所有者への配慮もあり「未活用住宅」という言い方をしている。その特定空き家と言われるものは、現在、750件のうち150件ほどあり、今後も増えていくだろうと予測している。つい最近も、自分の近所の家が亡くなられて、親族が県外ということで空き家になっているところがあった。

▼委員

当然増えていくと思う。ただ、そういった所有権が動く、相続が発生した時がチャンスではあるのだが。

▼政策経営部長

実際、空き家利活用の斡旋において良いところまでいっても、いざとなると仏壇があるので貸せないといった理由でとん挫してしまうこともある。

▼総務部長

あるいは、福井の土地柄かもしれないが、外国人や若い人には貸せないと言われることもある。どうしても素性が分からない人への抵抗感というものがある。

▼委員

この体系図を見ていて、基本目標から右に進み最後に主要な事業まで書かれてあるが、その先の部分、例えば自分もITが苦手で面倒だなと思うこともある。そういった人たちにITに親しむ講座をやるにしても、どうやって受けてもらうか、届けるかということまでイメージして作っていかなければならないと思う。公共サービスアプリなども良いものがあると思って聞いていたが、実際どれくらいの人知っているのか。増やすためにどう周知していくのか。そこまでイメージしているのかが大事ではないか。

▼政策経営部長

例えば、IT講座は現在、地区公民館で開催しているが、タブレットやスマホからインターネットにつなげて情報を検索するといった基本的な操作について、提案型市民役事業として民間企業に行ってもらっている。行政ではできない民間のノウハウを活用して取り組まれており、少しずつではあるが受講者も増えてきている。あと、IT推進フォーラムにしても、以前はレベルの高い、ちょっと堅めの講師を招き開催していたが、数年前から「ゆるパブリック」という若い人たちが起ち上げたNPO団体が中心となって、例えばドローン体験やAIチャットボット体験、VRでの世界一周旅行体験などを企画し、ITと気軽に楽しく触れ合うことができると好評を博し、参加者も一気に増えている。このように工夫しながら民間や団体などと協働で取組みを進め、ITは難しいものではなく様々な方に恩恵が行き渡る社会の実現を目指していきたいと考えている。

▼委員

急激にということは難しいと思うので、地道に進めていくことになるのではないかと。

▼政策経営部長

今ちょうど過渡期を迎えているのではないかと感じており、自分の下の世代、特に若い人たちはインターネットが当たり前の世界になっているので、ITの普及啓発は自ずとなくなっていくものと考えている。

▼委員

この新たな総合戦略はいつごろまでに仕上げるのか。

▼事務局

第1回の推進会議の際には、答申も含めて今年の12月までにと説明させていただきましたが、総合戦略に加えて現在、子育て関係や女性活躍関係の計画も並行して作成中であるため、それらの計画との整合性も図りながらということで、年内に素案を作成し、年度内に答申、完成ということでお願いしたいと思います。

▼委員

分かりました。議会には諮るのか。

▼事務局

説明はしますが、承認をいただくといったことはございません。

▼委員

分かりました。

▼政策経営部長

ただ、来年度の予算編成の関係や、この総合戦略がある程度出来上がっていないとその他の計画の組み立てもできないといったこともあるので、素案は年内には提示したいと考えている。そして、その他の計画と整合性を図りながら年度内の完成を考えている。

▼委員

分科会はこの後も開催されるのか。

▼事務局

分科会は今日1回のみですが、本日いただいた意見等は分科会長と調整させていただき、委員の皆様には調整した結果を通知させていただくということでお願いします。

▼委員

委員全員で集まるのはいつごろになるか。

▼事務局

11月には開催をして、素案を提示させていただきたいと考えています。

▼委員

分かりました。11月に素案となると、これ以上の意見反映は難しいところがあるかもしれない。

▼事務局

先ほど予算編成の話もありましたが、特にSociety 5.0に関しては、まだ固まりきれていないところもありまして、財政部局からもSociety 5.0関連の予算を各課に投げかけると言っており、今後さらに良い施策、事業が出てくる可能性もありますので、追加での記載もあるかもしれません。

▼委員

Society 5.0は他の分科会にもすぐ関わってくると思う。

▼事務局

おっしゃられたとおり、現戦略では実は第2分科会の「若者が住みたくなるまちの創造」のところに組み込まれていましたので、明日開催予定の第2分科会においても議論していただく予定です。

▼委員

第1分科会においても、眼鏡産業はまさにSociety 5.0によって大きく変貌していくと思っており、飛躍するチャンスだと思うので、ぜひ「魅力ある雇用の創出」の項目でも取り上げてもらいたい。

▼事務局

実は第1分科会は先週開催をしまして、Society 5.0についても委員の皆様に関心も高く、様々な意見をいただきました。事務局からは産業の高度化に向けて推進していくためのAI・IOT関連補助金も実際スタートさせていると説明しましたところ、委員からはAIやロボットにいく手前のITの部分の整備自体が進んでおらず、例えばパソコンでの在庫管理など基礎的な所での支援も必要との声もいただいているところです。それらも踏まえて現在検討中であります。

▼政策経営部長

Society 5.0のレンジが広く多岐にわたるので、走りながら進めているというところである。

▼委員

たしかに世の中の仕組み自体が大きく変わるということなので大変かと思うが、逆に言うと、一瞬で置いてきぼりにされてしまうということでもある。スピード感を持って取り組まないといけない。

▼政策経営部長

国においてもSociety 5.0について本気度を示しており、交付金に特別枠を設けたり、専門人材の派遣制度を設けるなど、この動きに乗り遅れてしまうとITのまちと鯖江は謳っているが、取り残されてしまうので取組みを推進していきたい。

▼委員

黒船みたいなもので、スーパーシティ構想も国は出している。国内だけではなく海外にも一瞬で追い抜かれて陳腐化してしまう。

▼政策経営部長

携帯からスマートフォンへ、また今はキャッシュレス社会へと一気に変わっていったるように、これから一気に変わっていくのではないかと。

▼事務局

まとめ（ホワイトボード・別紙のとおり）の説明。

▼分科会長

今のまとめの説明について、何か追加でも結構ですので何かありますか。

▼委員

改めて施設や公園など駐車場が足りないというのはよく耳にする。

▼事務局

最後になって申し訳ありませんが、第2分科会の委員から地域交通に対する意見をメールで伺っておりますので、ここで報告させていただきます。バスの利活用ということで、コミバスを高校生までは運賃を無料にしたらどうかといった意見と、バスをオンデマンド化したらどうか、後々は自動運転化されていくはずなのでといった意見をいただいております。それと、中心市街地への誘導の話で一つ追加したい事業があります。古い住宅だとリフォーム代などの費用が掛かり抵抗を感じるという意見や、街中の物件は家賃が高いと実際街中に住んでいる人からの意見もありまして、県の事業にはなりますが、子育て世代や移住者の方が空き家に移り住む場合の購入費や借りてリフォームする場合の費用について上限は50万円と少額ではありますが、補助する事業もありますので、コンパクトシティの推進の主要な事業に追加したいと思っています。なお、補助対象エリアとしては市全体にはなりますが、中心市街地への誘導への一助にはなるものということとご理解ください。

▼総務部長

今、空き家対策計画も策定中なので、そちらとも整合性を取りながら進めていきたい。

▼分科会長

分かりました。色々意見を述べたが、行政が一生懸命取り組んでいることは重々承知しており、おそらくこれからは公民連携という形で進めていかなければならないといったことがたくさん出てきたと思う。その辺の雰囲気作りのきっかけを誰がどのように構築していくか、また行政がどう後押ししていくかだと思う。そういう意味では、鯖江市は公民連携の動きはいっぱい取り組まれており、将来有望だと思っている。それでは、時間になりましたので、分科会を終了します。本日はありがとうございました。